

當時淡湖翁は、百七銀行の頭取として、東北財界の重鎮であり、學徳共に高き人格者であり、將た

内郷村報の 六大使命

- 一、政黨派を超越して、村元實主義を標榜す。
- 二、村内公私各機關の活動状況を報導し併せて其協調を圖り、總親和總努力の實現を期す。
- 三、本村共済事業の徹底を期す。
- 四、村内の善事善行を表彰し、且之を獎勵す。
- 五、本村と本村出身者及本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。
- 六、尙餘力を以て、國民善導に當る。

内郷村報

天一人則
法從順ナ
ルベシ

先づ一億一體から！

大内民恵

今や一億一心は、國を舉げての提唱であり、將た信條である。こゝに改めて言ふ迄もない。されど其一億一心の「一心」の根元は、何處にあるかを、深く考究するに於て、一億「一體」が其先驅をなすべきものと思はれる。心と體、精神と身體、之はもとより不離一體であつて、「健全なる精神は健全なる身體に宿る」の眞理なる、亦言を俟たないものである。一億一心は、一億「一體」を意味するは、言ふまでもないことではあるが、刻下の國情乃至國策を検討するに、其心則ち精神の宿處たる、體即ち身體の維持發護よ一大錯誤あることを、發見せらるゝのである。

第十二回 委員大會記

大内民恵

五月十八日より三日間、山口縣宇部市に於て、第十二回全國方面委員大會が開催せられ、予は那聯合會を代表して、之に出席したのである。此一文は、其概況であると共に、其報告書でもある。

一、緒言

「衣」住の二問題は、先づきておき、我國民の主要食料は、五穀野菜で、魚鳥獸肉等に次ぎ、其調味料、燃料等が缺くべからざるものである。今其中樞をなす「米」に就いて一瞥せんか

全國に於ける産出米何程、移入米何程、輸入米何程、其不足を補充する代用食料各種々何程、總計何程。以上の數量を嚴重に調査し、徴收し、その數量を全國の人口に割

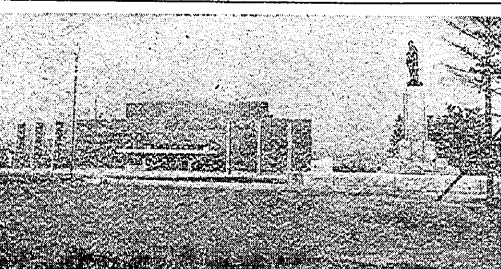
五月十八日より三日間、山口縣宇部市に於て、第十二回全國方面委員大會が開催せられ、予は那聯合會を代表して、之に出席したのである。此一文は、其概況であると共に、其報告書でもある。

二、本縣の代表

縣社會事業主事中山良男氏を筆頭に左の二十九氏であつた。
藤社大、上野代收造、大平勲、松本祐夫、田母神彦、伊藤喜左衛門、岡本萬藏、吉田造酒、遠藤心光、庄司愼之慎、小泉政治、氏家義興、高野平治郎、國分傳次郎、鈴木義三、味澤今朝治、小野龜二郎、田中仲三、足立俊雄、堀田謙次郎、瀨谷彌三、菅野勝次郎、高坂征、齊藤光雄、藤巻榮作、猪狩忠、岡田重治、大塚孝順、大内民恵、【順序不同】【若し御記名もれがあつたらば御通知ありし】

三、開催地宇部市

宇部市は山口市の西南約二十軒瀨戸内海周防灘に臨み、方約四軒、人口十萬五千を有する、新興工業都市である。舊時毛利家の重臣福原家の治下に屬した、一農漁村に過ぎなかつたのであるが、炭礦の發展に伴ひ、急峻なる發展をなし、大正十年一躍市制を布かれ昭和十三年には、開港場に指定せられ、移出入貨物の多き、全國諸港中の第九位を占めて居る。



大 會 場 渡 邊 翁 記 念 館 像

其今日の盛運を致せるは、先づ地の利と人の和とが相一致し、時の利を獲得した結果であると思はれる。其和の中心となつた人傑は、渡邊翁策であり、藤本剛作翁である。共に故人となつたのであるが、其遺業は十萬市民によつて、之を繼承せられ、歴々躍進の一踏を辿つて居る。今度工費七十萬圓を要した、今度の大會第一日

予は五月十七日午後三時、東京隣接特急「ふじ」に搭乗、會場に着いたのは、翌十八日午前十時であつた。我等代表は、ステーションに向つて右、第一線の好位置であつて、全國並に外地參列代表、二千八百余名が、全堂に整然着席した光景は、正に偉觀であつた。午後一時、先づ野村氏以下數名の神官によつて、物故方面委員八

予は五月十七日午後三時、東京隣接特急「ふじ」に搭乗、會場に着いたのは、翌十八日午前十時であつた。我等代表は、ステーションに向つて右、第一線の好位置であつて、全國並に外地參列代表、二千八百余名が、全堂に整然着席した光景は、正に偉觀であつた。午後一時、先づ野村氏以下數名の神官によつて、物故方面委員八

予の指定された宿は、市の方面委員東海岸通唐津市松氏宅であつて、同氏に伴はれて同家にお世話になることになつた。御夫妻と御女中から、至らざるなき御款待を忝ふし、眞に感謝の辭なきに、苦しんだことであつた。

本紙發行は大内一家の事業にして、其の社説は予孫に對する遺言を兼ねるものなり

予は五月十七日午後三時、東京隣接特急「ふじ」に搭乗、會場に着いたのは、翌十八日午前十時であつた。我等代表は、ステーションに向つて右、第一線の好位置であつて、全國並に外地參列代表、二千八百余名が、全堂に整然着席した光景は、正に偉觀であつた。午後一時、先づ野村氏以下數名の神官によつて、物故方面委員八

淡湖翁夫妻も、定めし地下に莞爾たることと思はれる。須らく精

國樂の光景を、一語技師のカメラにおさめ、歸途本邸に寄り、今日の留守居役、角田夫人に敬意を表し、其勞を稱つて、夕刻歸宅したのであつた。

し、原事務理事の會務報告並に議事に入り、各府縣提出研究事項は第二日の各部會に於て、審議することになり、厚生省社會局保護課長の、醫療保護法に關する有益なる講演があり、引き續き元侍從武官出水海軍中將の「今上陛下の御聖徳を仰ぎ奉りて」を題する、満場を以て肝銘感激措く能はざらした、特別講演があつて、午後四時過ぎ、盛會裡に第一日を終つた。大會第一日を終つた、午後五時より、宇部市みどりや百貨店食堂に於て、縣代表の懇親會を開會（會費一圓五十錢）出席者は前記三十名全部。銘々立つて自己紹介をなし、和氣藪々裡に晩餐を共にした。但し夫々指定の宿所より、迎へをうけて居つたので、悠々懇談を交はすこと、豫定の記念撮影をする時間がなかつたことは頗る遺憾であつた。

予の指定された宿は、市の方面委員東海岸通唐津市松氏宅であつて、同氏に伴はれて同家にお世話になることになつた。御夫妻と御女中から、至らざるなき御款待を忝ふし、眞に感謝の辭なきに、苦しんだことであつた。

大塚遠藤兩師の宿は、其附近同方面委員濱本一氏宅であつたので、萬事便宜を得た事であつた。

六、大會第二日

全國より提出せられた研究協議事項は、四百余項に達し、之を左の五部に分ち、出席全員夫々之に分屬して、其協議會を開いた。

▽第一部、隣保組織と方面委員制度との聯絡に關する事項。會場、神原國民學校。部會長、高橋厚生省保護課長。

▽第二部、生業發達に關する事項。一 三面へつづく

本紙發行は大内一家の事業にして、其の社説は予孫に對する遺言を兼ねるものなり

國樂の光景を、一語技師のカメラにおさめ、歸途本邸に寄り、今日の留守居役、角田夫人に敬意を表し、其勞を稱つて、夕刻歸宅したのであつた。

一面よりつづく
 會場、宇部高等女學校。部會長、赤木社會事業協會理事。部會長、宇部工業學校。部會長、渡邊山口縣學務部長。
 △第四部、集團的保護指導に關する事項。會場、宇部國民學校。部會長、伊藤厚生省兒童課長。
 △第五部、軍人援護に關する事項。會場、沖ノ山國民學校。部會長、加藤軍人援護院扶助課長。
 △第六部、本縣案を、説明する予定であつたが、如何なる行きかひか、縣よりは提出せられなかつたので、遺憾ながらそれを差押へ、唯全國代表の叫びを拜聽するに過ぎなかつた。

七、大會第三日
 二十日午前九時より、渡邊翁記念會館に、再び全員集會。先づ第一部會長より、順次各部會長が、夫々協議決定事項を報告し、滿場拍手裡に之を可決し、其他各種の報告があつて、林副會長の閉會の辭、續いて武井知事の發聲で、萬歳を三唱し、東京市川口寛氏全員代表の謝辭、武井知事、伊藤市長の挨拶があつて、縣市響應の畫聲

會にうつり、其間秋女子青年團の「男なら」「勤王節」山口女子青年團の「錦旗節」宇部市紅襪隊の「南蠻歌」二國民進軍歌一等の、郷土藝術の紹介に、一同陶酔、午後一時目出度閉會を告げた。
 かくて大會參列者は、市方面委員の案内により、市内、山口、萩秋芳洞、下關、岩國等を、各班に分れて視察を行つた。
 各部會協議の結果は、夫々雜誌「方面事業」に掲載せらるゝ、專ら思ふので、こゝには之を割愛した。

八、結 語
 予は開會中の寸暇を利用して、秋芳洞及萩市を見學し、閉會後歸途廣島、愛媛、大阪、京都等に散在する、知友を歴訪して舊情を温め、二十日夜無事歸村した。其概況は次號に掲載しやうと思つて居る。
 最後に本縣代表の各位、山口縣及宇部市當局、宿主廣松氏一家、並に歸途沿道の知友諸君等に對し衷心より感謝の微意をいたして歸筆する。
 一追記一殊に宇部市に對しては、二十有年前の、曾遊當時を追憶して、無量の感にうたれざるを得なかつた。

全國一の
 菅原倉松君
 磐城炭礦株式會社 菅原倉松君は、過ぐる増産強調週間、於て、披群の成績を擧げ、五月二十六日首相官

磐城の炭礦の新陣容



磐城では、六月十四日、東京丸之内海上ビル本社に
 勝三氏を、新に専務取締役
 に迎へ、専ら合理的經營方針を取ることに決定、左の通り重役陣を刷新して、積極的經營建直しに乘出すこととなつた。

現社長淺野總一郎氏は、セメント事業に専念するため、其第一線を退き、新に設けられた、會長制によつて會長となつた。
 △新社長には「秋一日發」

行き詰る現代の教育制度を解體し、學理を實際に、歴史を實際から新に大内案九主義を提唱す。天下知名の士の賛同攻撃に違あらず。これ未だ一人の抗議者も現はれず。

我國教育學界の權威
 前京大總長小西重直博士
 香を寄せて曰く、多年ノ御體験下實地ノ御試練ニ基テ眞學國ノ大精神ヲ拜味仕リ不思感激ニ至リ申候云々。

高坂部落常會記

村常會 田口淳三

慎重協議、團長高坂校長堀一郎、副團長島田兼吉、八木新吉、農業部長草野雅一、工業部長草野泰一、商

校代表者として、御親閱の光榮に浴した、本村關係の人々は左の通りである。

六二人、其他七〇人。授産狀況、昭和七年十二月開設創立當時より約五ヶ年間は之が經營に相當の苦心を

教育制度改革概論

矢野恒太 大内民惠著
 (四六版二二頁 定價五十錢 郵税六錢)

發行所 日本評論社
 東京京橋三丁目

發行所 内郷村報社

取次所 内郷村報社

樞密院が本官!

其後は御無沙汰致し失禮して居ります。相變らず御元氣にて御活動の由誠に結構です。内郷村報毎號頂戴致し難有拜見して居ります。尊嚴の御活躍振舞ひ、紙上に躍如として居るやうに存せられます。小生樞密院の方が本官。行政裁判所の方が本官に相成り元氣よく勤務して居ります。相變らざる御懇情を感謝します。 民恵

諸橋、襄 (前本縣學務部長)

貳圓九拾錢から參圓!

磐城の都市募集に應じ
 深川より來山した從業員
 一前略一私達五島様のお蔭で續に來まして早一月 其間無缺勤で今日迄働いて居りました。此も皆五島様のお蔭で深く感謝して居ります。第で御座います。今日では買金貳圓九拾錢から參圓頂いて居ります。それで五島様の申す通り、毎日八拾錢位で上ります故大部小遣も貯金出來、こんな事ならもつと早く來るんだつたな。家内も話があつて居ります。向これから一層一生懸命にやる覚悟で居ります。何卒御指導下さることを切に御願申上げます。もし續に御出張の際は是非私共の生活ぶりを御覽いたされたらいいものさ。それを

勝俣定吉 (三)

本村の義勇軍は縣下の横綱

縣職業課調査、三月三十一日現在の滿洲青少年義勇軍送出数は、縣下を通じて二千一名に達し、郡山市の三十九名を筆頭として、本村にては二十九名を出し、番付に於て西の横綱たるの榮譽を博した。之れ偏に村當局及高坂國民學校囑託草野五郎氏の努力に依るものとして、縣當局に於ても、氏の功勞を賞揚して居つた

石城郡 協會表彰
 五月二十四日日本村から其表彰をうけた人々は左の通り
 齊藤彌一、小松樹太郎、山崎千朝、戸田政記。

宮第一懇談會

磐城炭礦株式會社 菅原倉松君、右者自昭和十六年一月至昭和十六年三月全國石炭増産強調週間に精勵恪勤特に優秀ナル成績ヲ收メタリ仍テ茲ニ之ヲ表彰ス
 昭和十六年五月二十六日
 厚生大臣
 從三位勳二等 金光庸夫

辯會講談社よりうけた表彰狀の掲載は、紙面の都合上之を割愛した。

表彰狀

磐城炭礦株式會社 菅原倉松君、右者自昭和十六年一月至昭和十六年三月全國石炭増産強調週間に精勵恪勤特に優秀ナル成績ヲ收メタリ仍テ茲ニ之ヲ表彰ス
 昭和十六年五月二十六日
 厚生大臣
 從三位勳二等 金光庸夫

佐藤作藏氏の挨拶があつて縣支部顧問として出席した大内民惠氏が、大政翼賛、臣道實踐の意義及部落民の心構等に就きて、約三十分の講演後、各自隔意なき懇談を遂げ、同九時散會した

畏き御親閥を忝うして

内郷村立鏡 高萩邦男

名譽ある我學校の代表として、破格なる御親閥の光榮に浴するこゝとなつた私は、神佛に父母に感謝しつつ、暗の目を待つて、五月二十日午前五時、熱誠溢る、生徒諸君の萬歳聲裡に、綴驛を立つて出陣、縣下の代表六百の健兒と、豫行演習を行ひ、翌二十一日午前零時、特別立列車に塔乗して入京、宮城前に於て再び演習を行つて宿舎につき、感激の夢を繰り返して、五月二十二日！私は眞先に起き出て、身を清め、服装を整へ、兵器の入手に萬全を期し、勇んで宿舎を出て、午前八時乾門より参入坂下門より堂々式場に到達した。式場は三萬五千の若人の意氣と、熱誠と、銃剣の林！其壯觀威容職線の皇軍の部隊もかくやと思はれた。午前九時五十分 陛下奉

内池家 八幡社祭禮記

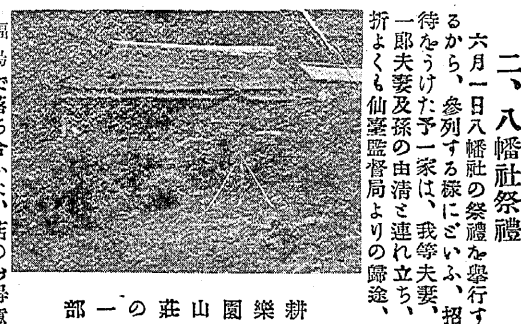
大内民恵



氏郎五久池内主當

一、緒言
回顧すれば予が、外遊準備の爲に約一年間、叔父にあたる、福馬市故淡湖内池三郎邸方に寄寓したのには實に三十五年前であつた。

福馬三筆と歌はれた、書道の權威でもあつた。而して其劇務の餘暇を利用して、悠々遊樂すべく、市外波利村つゞじ山(川より約半里)に、耕樂園と稱する、山あり川あり池ある、十余丁歩の農園を拓き、其山の頂上には、一族の西谷家と計つて、祖先の故郷江州八幡から、神靈を分祀して、八幡の小祠を建立して奉齋したのであつた。翁の長子法博康吉兄は、南大教授として名を馳せ、東京に移住し、其長女良子さんに、彌切大使の令弟久五郎君を迎へて、家業たる味噌醬油醸造業を繼がしめたのであつた。今其久五郎君は、農銀重役、市信用組合長、三器商會



部一の莊山園樂耕

二、八幡社祭禮
六月一日八幡社の祭禮を舉行するから、参列する様にごいふ、招待をうけた予一家は、我等夫妻、一郎夫妻及孫の由清と連れ立ち、折々くも仙臺監督局よりの歸途、

福馬で落ち合ふた、店のお得意警察の濱崎礦業所長をお招きして、馳せ参じたのは、同日午前十時過ぎであつた。されど遺憾ながら、一家一門及従業員一同等百十余人参列の下に、丹治神官によつて、祭式を行はれた後であつた。

三、祝賀
思出深き山莊の客間は、神官を主賓に、主人、西谷小兵衛、内池五郎、角田平吉、橋本長吉の諸君主婦、内池愛子夫人、高木夫人、西谷若夫人等々で満ち、但東京の内池兄、安田夫人、大野運吉君高木吉助君、殿内守兵衛君、内池五郎夫人、白石の鈴木菊藏君夫妻

四、予の感想
予は參集した人々に親しく相見ゆるや、萬感交々至り、聊か其一端を語らうと思つたであつたが、機會を得なかつたから、其概要をこゝに書いておかうと思ふ。

五、結語
國樂の光榮を、一語技師のカメラにおさめ、歸途本邸に寄り、今日の留守居役、角田夫人に敬意を表し、其勞を稱つて、夕刻歸宅したのであつた。

内郷村報の 六大使命

- 一、政黨政派を超越して、村元實主義を標榜す。
- 二、村内公私各機關の活動状況を報導し併せて其協調を圖り、總親和總努力の實現を期す。
- 三、本村共済事業の徹底を期す。
- 四、村内の善事美行を表彰し、且之を奨勵す。
- 五、本村と本村出身者及本村關係者の聯絡を計り、且其發展向上を期す。
- 六、尙餘力を以て、國民善導に當る。

運搬配給の方法を考究し、實施することゝなす。上下一致の之を實行すべきである。こゝに始めて一億一億の根元發生し、一億一億が發揮されるのである。

本紙發行は大内一家の事業にして、其の秘説は子孫に對する遺言を兼ねるものなり

四、大會第一日
予は五月十七日午後三時、東京驛發特急「ふじ」に搭乗、會場にて、

内郷村報
天法人
順人
ナ則

本紙發行は大内一家の事業にして、其の秘説は子孫に對する遺言を兼ねるものなり

本紙發行は大内一家の事業にして、其の秘説は子孫に對する遺言を兼ねるものなり

本紙發行は大内一家の事業にして、其の秘説は子孫に對する遺言を兼ねるものなり